

「施策」総括票

施策展開	3-(1)-ウ	陸上交通基盤の整備	
施策	①各拠点を結ぶ道路網の整備		157頁
対応する 主な課題	○道路は県民生活や経済活動を支える上で重要な役割を果たしているが、広域交流拠点と各圏域拠点間の有機的な連結が実現しておらず、交通渋滞が慢性化している状況であることから、体系的な幹線道路ネットワークの早期構築が必要である。		
関係部等	土木建築部、警察本部		

I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
○陸上交通基盤の整備				
1	那覇空港自動車道の整備	国直轄	順調	○国は、豊見城東道路、小禄道路の整備を行った。県は、当該事業の促進を図るため、国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行った。(1)
2	沖縄西海岸道路の整備	国直轄	順調	○国は、読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、豊見城道路、糸満道路等の整備を行った。県は、当該事業の促進を図るため、国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行った。(2)
3	ハシゴ道路ネットワークの構築	3,856,791	順調	○沖縄環状線、浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号線BP、国道507号(津嘉山BP)、南部東道路等の整備を行った。(3)
4	情報通信技術の活用による交通の円滑化	943,264	順調	○交通信号機の整備(新設、改良、更新)、交通管制システムの充実・高度化、管制エリアの拡大及び信号機の集中制御化並びに高度道路交通システム(ITS)の整備による道路交通のIT化を推進した。(4)

様式2(施策)

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1	交通渋滞等による損失時間	41.2千人時間 /年・km (18年度)	—	減少	—	20.3千人時間 /年・km (18年度)
	状況説明	交通渋滞状況について、成果指標である交通渋滞等による損失時間については、データがないため、近年の状況は不明だが、参考データの混雑時旅行速度からすると、全国と比較して低い水準が続いている。ただし、取り組みは、計画通り進捗しており、体系的な幹線道路ネットワークの早期構築につながっている。				

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
混雑時旅行速度	—	28.3km/h (17年度)	27.3km/h (22年度)	→	35.1km/h (22年度)

III 内部要因の分析 (Check)

<p>○陸上交通基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設道路の供用等により新たに必要となる交通安全施設を迅速かつ適切に設置するとともに、老朽化した既設の交通安全施設の更新を着実に実施する必要がある。 ・道路事業を含む公共事業を推進するための財源が限られているなか、現状でも混雑時旅行速度が大都市圏並に低い水準であるのに加え、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることを踏まえ、体系的な幹線道路ネットワークの構築に向け効率的な取り組みを行う必要がある。
--

IV 外部環境の分析 (Check)

<p>○陸上交通基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中南部圏域の幹線道路では、混雑時の旅行速度が 15km/h を下回る区間が多数みられるなど、大都市圏並の渋滞状況となっている。自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、那覇空港自動車道、沖縄西海岸道路の早期整備、及びハシゴ道路ネットワークの早期構築を図る必要がある。

V 施策の推進戦略案 (Action)

<p>○陸上交通基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県は国に対し、那覇空港自動車道、沖縄西海岸道路の早期整備の要望を積極的に行う。 ・国、関係市町村等と連携しながら、ハシゴ道路ネットワーク構築を重点的に推進し、早期完成供用を目指すとともに、交通需要マネジメントなどのソフト施策との連携や、主要渋滞箇所の優先的な整備など、効果的な取組を行う。 ・沖縄地方渋滞対策協議会において特定された主要渋滞箇所については、渋滞原因の分析や対策案の検討等、渋滞緩和に向けた取り組みを行う。 ・業務の外部委託等事務の合理化を図り、交通安全施設の新設、改良、更新事業を効率的に行う。
--